

# The DairyAustralian

ザ・デーリーオーストラリアン

国際版

2011年8月





# The Dairy Australian

ザ・デーリーオーストラリアン

2011年8月



## 目次

1. 価格と需要の改善に見る明るい兆し
2. 乳質を左右する飼料管理の重要性
3. 乳糖不耐症による乳製品離れへの警鐘
4. DAウェブサイト、リニューアルのお知らせ
5. 成長業界のリーダーとして
6. 牛乳乳製品の栄養素研究のためのコンソーシアム創設
7. 自動搾乳システムの運用改良による乳量増大効果
8. 乳脂肪の効用に再評価の流れ
9. 豪州の生産概況
10. 国際市況レポート



## 価格と需要の改善に見る明るい兆し

### 市況は大幅な回復へ向かう

10/11年は国際乳製品価格に大幅な改善が見られた。中国、ロシアを中心とする新興国市場の堅調な需要と為替の米ドル安基調が続いたことが大きく、豪州生産者乳価の引き上げにもつながった。

DAの2011年版Situation and Outlook Reportでは、国際原料乳製品価格の上昇、世界経済の回復、アジア経済の確かな成長といった要因が楽観主義を支えていると見る。

東日本大震災や中東不安による乳製品消費への影響については発生当初に懸念されたものの、こうした地域の輸入需要は拡大が続いている。中国や東南アジアといった主要市場でも、需要は安定した伸びを示している。

国際市況は過去3年の不安定な値動きが収まり、比較的高値で安定化しつつある。

しかし、米国の経済回復の遅れや欧州のソブリンリスク問題など、先行きの不透明感はいまだに残っている。経済成長や乳製品貿易に関しては、新興国市場の動向がより注目される。

豪ドルが高止まりしている状況では、輸出業者は原料乳製品価格上昇のメリットを十分に受けることができていない。利幅の押し下げ圧力が強まる中、メーカーは今後、豪州国内市場と海外市場の両方でリターンと成長の機会を慎重に検討することになるだろう。

乳製品の高値が続く中、より低価格な植物油・植物由来タンパク質への代替は進んでいない。消費者は品質に強いこだわりを見せており、乳素材の良質な製品の購入意欲は根強い。

### 持続的なリターンを待つ酪農家

好調な経済指標と良好な生産条件が出揃ったことにより、豪州酪農家の多くは成長の足がかりをつかんだ様子だが、乳牛頭数の増大やインフラ促進など大規模な投資を行うには安定した収益の持続性が必要だ。

10/11年シーズンの生乳生産量は前年比約1%増の91億ℓを維持した。11年6月発表の初期乳価は前年同期比で平均3%上昇。但しシーズン終了時には前年並みに戻るとみられる。市場のボラティリティと生産(天候)条件が大きな変動要因となる。豪ドル高基調が今後も続き、競合する輸出国や主要顧客の通貨とのバランスが大きく崩れた場合、今後の価格見通しのリスク材料となる。

豪州酪農は南東部地域(ビクトリア州、リベリナ、南オーストラリア州、タスマニア州)で、より大規模に展開されている。この地域は安定した国際市況、サプライヤーからの盛んな引き合い、良好な天候など好条件がそろい、生産環境は過去10年で間違いなくベストの状況と言ってよい。一方、北部と西部の生産地域は気象の深刻な影響から回復しつつあるが、製造工場の閉鎖や低価格のPB牛乳の参入などによる不安定な状況への対応に迫られている。

水資源の確保をめぐる政策や炭素税制度の影響は、豪州酪農乳業の競争力や成長性を測る上で重要な要因となる。業界全体の持続可能性や発展にとり、人材育成(発掘、能力開発、継続支援)を可能とする体制づくりの重要性も、今後は更に増していくことになるだろう。

(2011 Dairy Australia Situation and Outlook Report《英語版のみ》は、[www.dairyaustralia.com.au/situation-outlook](http://www.dairyaustralia.com.au/situation-outlook) でご覧いただけます)

## 乳質を左右する飼料管理の重要性

豪州酪農家が高い国際競争力を維持するには、生産効率の向上が必要だ。そのために変動費の90%を占める飼料コスト問題への対応は、酪農経営の必須課題といえる。

飼料の質や栄養価など簡単に分かるものではない、とスティーブン・ヘンティ氏はよく分かっている。飼料の栄養価について確信をもてる唯一の方法は、研究所で調べるしかない。

ヘンティ氏は、飼料購入時に研究所の検査結果を利用する。数種の飼料の中から価格に見合った物を選ぶためだ。検査結果をもとに、毎日の牧草と濃厚飼料の配分を調整する。

ヘンティ氏は最近、Grains2Milkプログラムの飼料簡易分析サービス (RAPID Feed Analysis service) に依頼して干し草の栄養価についての検査を行った。

「(このサービスでは) 集乳トラックが検体を回収し、2、3日中に結果を電子メールで送ってもらえる。使用する干し草の栄養価が分かれば、牛に与える量や、その代わり牧草をどれだけ抑えても良いのか、自信を持って判断できるようになる」

検査結果をもとに牛舎で与える濃厚飼料の量を調節することで、飼料コストを抑えることもできるという。

ヘンティ氏は妻のマーゴさんとビクトリア州北部のCohuna近郊で酪農場を経営している。split-calving (繁殖を年に数回分ける) 方式を採用し、乳牛は230頭。一頭あたり8000 - 8500%の搾乳量を目指している。

「飼料選びでは価格と品質の両方を重視している。トン当たり価格の高い方が質が良いことはよくあるし、良い飼料だと牛もよく食べてくれるので無駄にならず、全体の購入量は少なくて済む」

DA出資のGrains2Milkプログラムを管理するスティーブ・リトル博士は、飼料分析サービスの利用が今ひとつ進まない理由として、「手間がかかる(というイメージ)」「コスト」「結果判明の所要時間」「検査結果の解釈の難しさ」「結果に対する信頼不足」の5つを上げる。ビクトリア州全域で試験導入中のこの飼料簡易分析サービス (RAPID Feed Analysis service) では、このうち「手間」「コスト」「所要時間」の改善に取り組んでいる。

Grains2Milkプログラムは、飼料管理(穀物飼料、濃厚飼料)に関する酪農家の適切な判断に必要な研修や各種のリソース、サポートを提供するサービスである。酪農家から集めた拠出金をもとに、DAが資金提供を行っている。





## 乳糖不耐症による乳製品離れへの警鐘

乳糖不耐症と医師に診断された結果、あるいは自己診断により乳製品を避けてばかりいると、大切な栄養をとるチャンスを失ってしまいかねない。

DAのズーコ栄養士は、乳糖不耐症を心配するあまり牛乳乳製品を避けることについて、食生活や健康面から警鐘を鳴らす。

「牛乳乳製品は手軽に食べることができ、しかも豊富なカルシウムのほか9種の必須栄養素(マグネシウム、カリウム、ビタミンA等)を含む栄養豊かな食品だ。その摂取量が不足すると、慢性的な健康不安のリスクが高まるおそれがある」

乳糖不耐症の科学的証拠を検証するために豪州国立保健研究所(NIH)が2010年に開いた専門家パネルの席上、乳糖不耐症の症例の大半について、乳製品を食べないという判断は不要という見解が示された。

ズーコ栄養士によれば、ハード系チーズ(チェダー、パルメザン)の乳糖含有量は実質ゼロであり、一般的に乳糖不耐症の人も食べられるという。

「ヨーグルトには乳糖を分解する乳酸菌が含まれているので、これについても普通は問題ない。牛乳も一日に少量ずつ回数を分けて飲んだり他の食品と一緒に食べるのであれば大丈夫」(ズーコ栄養士)

最近のAmerican Journal of Clinical Nutrition誌に、『自己診断(思いこみ)』による乳糖不耐症の人のカルシウム摂取状況とカルシウム不足による健康リスクに関する研究が掲載された。

これはアメリカの研究グループが19 - 70歳の成人3452人を対象に行った調査をまとめたものだが、(医師の診断によらず)自分を乳糖不耐症だと思う人はそうでない人と比べ、カルシウム摂取量が大幅に低いことが分かった。特に乳製品(牛乳、チーズ、ヨーグルト)の量が少ないという。

自己診断による乳糖不耐症の人の場合、高血圧症や糖尿病と医師から診断されている例もかなり多いという結果であった。

## DAウェブサイト、リニューアルのお知らせ

デーリーオーストラリア (DA) のウェブサイト [www.dairyaustralia.com.au](http://www.dairyaustralia.com.au) (英語版のみ) がリニューアルしました。豪州酪農乳業のお客様へ、更に充実した情報をお届けします。

新ウェブサイトの特徴：

- ・ 生産量、製造量の月間データを含む生産・販売関連情報
- ・ 最新の乳製品市場ニュース (隔週更新)
- ・ 乳製品輸出関連情報 (酪農乳業界や輸入規制、輸出補助金等に関する最新の解説)
- ・ 世界の市場価格
- ・ DA支援のプロジェクトの概要

家畜や最新技術、酪農家の様子、乳製品の栄養や楽しいレシピ等の情報も盛りだくさん。豪州酪農乳業に関することなら、新ウェブサイトをぜひご利用下さい。



The screenshot shows the Dairy Australia website homepage. At the top left is the Dairy Australia logo with the tagline "Your Day at Work". To the right is a navigation menu with links for Home, About us, Media, Publications, and Contact us, along with a search bar. Below the navigation is a horizontal menu with categories: Animals, feed & environment; People & business; Statistics & markets; Industry overview; Levy investment; Health & nutrition; Dairy food & recipes; and Education & careers. The main content area is divided into several sections: "2011 Dairy Feeding update" with a photo of cows and a "Read more" link; "Latest News" with a list of articles including "Market news - fortnightly update", "RAPID dairy feed test service to continue", "Managing in wet conditions", "Grains2Udder news: 2011 Dairy Feeding Update", and "Mastitis news: controlling Strep uberis"; "Current projects" with a photo of a farm; "Latest market information" with a line graph; "Your dairy region" with a map of Australia; and "Quick links" with a list of resources like "Hay & grain report", "The People in Dairy website", "Countdown Mastitis guidelines", "InCalf fertility advice", "Dairy osmole toolkit", "Who makes what", and "Dairy library".



## 成長業界のリーダーとして

豪州は今後5 - 10年の間、乳製品の生産能力が国際需要に追いつかない状況を迎えるようになると予測されている。豪州酪農乳業を発展に導く役割を担うデーリーオーストラリア (DA)。その舵取り役を務めるのがイアン・ハリデー社長だ。

ひとつの産業全体が大きく変わろうとしている、その渦中での18ヶ月間という期間は非常に長く感じられるかも知れない。

歴史に残る深刻な状況となった10年間の干ばつを経て、豪州酪農がようやく立ち直りの兆しを見せ始めた。イアン・ハリデーが豪州酪農乳業界の中核組織であるDAの社長に就任したのは、まさにその頃だった。

当時は困難が立て続きに起きた。経営悪化による酪農家の廃業が続く一方、存続を決めた酪農家には、飼料コストの増大による累積債務が大きな負担となっていた。さらには原料乳製品の国際市況の急落により、乳価は長年維持してきた水準を割り込むという有様だった。

ハリデーが社長に就任してから18ヶ月が経過し、豪州酪農はかつての勢いを完全に取り戻したようだ。昨シーズンは各地で雨が多く、クイーンズランド州やビクトリア州北部の一部で洪水が発生したものの、多くの生産地域で十分な牧草を手に入れることができた。乳製品需要は世界的に高まり、価格も上昇基調にある。豪州では今後5 - 10年の間、乳製品の生産能力が国際需要に追いつかない状況になると予測されている。こうした中、『将来の様々なチャンスを生かせるよう、豪州酪農をどのように再起動させれば良いのか?』ハリデー社長はこの課題を最大のチャレンジと捉えている。

### DA期待の新プロジェクト

DAでは今後有望なプロジェクトを検討の結果、資金援助の対象として大きく2つの分野を絞り込むことにした。その一つである遺伝子学(ゲノミクス)は、飼料や家畜の品種・品質の改善を図ることが期待される新しい分野だ。もう一つは人材育成分野であり、リクルート・継続支援・能力開発により酪農の未来を支える人材の育成を目指していく。

ゲノミクスによる優れた牛(牡、雌)の選別に関しては、共同研究機関デーリーフューチャーズCRCでかなり深く研究が進められている。消化性の改善や乾燥気候への耐性強化、収穫量の向上を目指し、さまざまな種類の植物の研究プロジェクトも進行中だ。こうした研究の成果は、今後の酪農生産活動の発展に大きく寄与するものと期待されている。



現代の酪農業は、体力だけでは務まらない。家畜への給餌と栄養管理、繁殖や受精技術の知識、天然資源の管理法など様々な技術とスキルの修得に加え、経理や財務、果てはマーケティングに関する理解まで求められることがある。この仕事に本気で取り組む人材を見つけ一人前に育てることは、多くの酪農家にとって大きな課題となっている。

DAでは酪農向け人材の育成に関し、従来の豪州酪農教育センターや中高生向けの酪農教育プログラムCows Create Careersに加え、新設のDairy Industry People Development Councilにも支援を行っている。

豪州酪農の未来には、素晴らしいチャンスが待っている。そのチャンスを生かせるよう酪農乳業全体がどれだけ発展していけるかが、今後の課題となるだろう。

最新の業界予測レポートSituation & Outlookでは、今後12ヶ月の成長率を1.6%と予測する。これを上回る成長を遂げ、豪州酪農乳業が再び着実に発展する基盤を固めることを、ハリデー社長は強く期待している。

## 牛乳乳製品の栄養素研究のためのコンソーシアム創設

国際的な酪農組織の連携のもと、牛乳乳製品の健康増進・病気予防効果に関する研究コンソーシアムが新設されることとなった。

豪州はInternational Dairy Research Consortium for Nutrition and Healthの創設に向け、他の5カ国の酪農機関との連携に参加することとした。このコンソーシアムは、乳食品の栄養や健康増進効果について、前競争的な研究活動を促進させることを内容とする。

参加メンバーはいずれも酪農分野の研究に多大な資金援助を行う、次の6機関だ：Centre National Interprofessionnel de l'Économie Laitière (フランス)、デーリーオーストラリア、Dairy Farmers of Canada (カナダ)、Dairy Research Institute (アメリカ)、Danish Dairy Research Foundation (デンマーク)、Dutch Dairy Association (オランダ)。

このコンソーシアムでは、乳食品需要の拡大に貢献する可能性が最も高いと思われる研究プロジェクトの特定を行う。そして必要な知識とリソースを結集し、プロジェクトの迅速な展開と成果の応用範囲の最大化を図る。

プロジェクト候補には、メタボリックシンドロームや慢性疾患に対する乳成分の効果の検証などが挙げられている。

「乳食品には、栄養面だけでなく他のプラス効果もあることを示す証拠がたくさんある」とDAのバリューチェーン・イノベーション、グループマネージャー、イザベル・マクネルは語る。

「このコンソーシアムを通じて国際的な連携を確立することにより、乳食品の新たなプラス効果を発見し、健康な食生活に欠かせない食品という位置づけを確かなものにしていくための、研究能力の向上を図っていく」





## 自動搾乳システムの運用改良による乳量増大効果

生産量増大と労働コストの削減により酪農の国際競争力を維持していくための有効手段として、自動搾乳システムの改良が進められている。

豪州では自動搾乳システムを導入する酪農家が増えており、その利用による生産性の最適化を図るための様々な研究が行われている。

昨年の後半、シドニー大学酪農研究センターで自動搾乳システムに関するひとつの試験が行われた。そこでは二通りの給餌管理法を行い、その生産性について搾乳牛とシステム両面から比較検証した。

試験のリーダーであるニコラス・ライオン氏によれば、1日の給餌回数を増やすと搾乳回数が増え、一回当たりの搾乳量は少ないが1日トータルの搾乳量は増えるという予備結果が示されたという。

この試験では、乳牛が自発的に搾乳ストールに入る自発的搾乳をベースに行った。ストールに入る牛が増えると、それが周りの牛の搾乳欲求を促すようになる。その結果、牛群全体の搾乳回数が増え、生産量増大につながる。

給餌回数の増加(2回から3回)の影響では、搾乳のインターバル時間が平均28%短縮、搾乳頻度は36%増という結果となり、生産量は20%増大した。3回給餌法による自動搾乳システムの稼働率はキャパシティの83%に達した。

「乳牛のパフォーマンスは給餌管理の仕方ですべて異なる」(ライオン氏)

## 乳脂肪の効用に再評価の流れ

医科学系の世界では「飽和脂肪酸は心臓病リスク増大の要因」という見方が長年定着していたが、最近になり食物脂肪(乳脂肪もそのひとつ)は健康にプラスであるとして、その価値が見直されつつある。

2010年、国際的な専門家だけを招いて開かれたパネルの席上で、「心血管疾患(CVD)リスクの軽減には飽和脂肪酸(SFA)の摂取を減らすべし」という提言の根拠についての検証作業が行われた。その時のコンセンサスペーパーは同年後半に米国の科学専門誌American Journal of Clinical Nutritionに発表されたが、そこには「飽和脂肪酸よりも精製炭水化物を取ることが健康に良い」とする主張には医学的根拠はない、という結論が示されている。

このパネルでは、飽和脂肪酸の代わりに多価不飽和脂肪酸(PUFA)を摂取すると、コレステロール全体量およびLDL(悪玉)コレステロールが減少し、CVDの予防に効果的であることが分かった。

コンセンサスペーパーの主執筆者でありパネルの共同世話人であるアーン・アストラップ教授は、コペンハーゲン大学人体栄養学部長とDanish Nordea Foundation OPUS研究センターのディレクターを兼務している。

同教授は「飽和脂肪酸に代えて炭水化物を多く摂取しても冠動脈性心臓病(CHD)のリスクは軽減しないどころか、むしろ増大する恐れすらある」と語る。

通説に関し、栄養学分野の専門家の間でこうした見解の変化が見られるようになった背景には、食物に含まれるトランス脂肪酸の影響がある。飽和脂肪酸に関する研究の初期には、トランス脂肪酸というものが「飽和脂肪酸類」の一つとして存在していることは知られていなかった。

「ある種の食物に含まれるトランス脂肪酸の存在について、過去の研究では見過ごされていた部分があった。CHDの発症リスクはトランス脂肪酸で劇的に増大する一方、飽和脂肪酸ではごくわずかでしかない」

「一価不飽和脂肪酸と心臓病リスク軽減の関係について有意性は認められないが、多価不飽和脂肪酸と心臓病の予防効果の関係では有意性が認められる」(アストラップ教授)

このシンポジウムでの結論により、今後は飽和脂肪酸についてより柔軟な見方が増え、食事のエネルギー密度を減らすには脂肪量全体を減らすべきという意見が今後は強まるはずだ、とアストラップ教授は語る。

「例えば、ダークチョコレートとチーズは両方とも飽和脂肪酸を多量に含む食品だが、それ以外のもっと重要な栄養素も含まれており、全体としては病気予防の効果をもつものと言える」

受賞歴のある科学系ライターであり『サイエンス誌』の特派員を務めるギャリー・トウブスは、飽和脂肪である無しに関わらず食物脂肪は肥満や心臓病、その他慢性疾患とは無関係だと主張する。

トウブスは、食物脂肪と心臓病との因果関係に関するこれまでの証拠を検証した結果、脂肪(飽和脂肪その他を問わず)が心臓病を引き起こすという意見に正当性はない、との結論に達した。

「1960年代に『炭水化物は肥満のもと』から『食物脂肪が心臓病を引き起こす』へとパラダイムシフトが起きてしまったことが誤りだった」

トウブスは先ごろ豪州を訪れた際、こう述べている「精製炭水化物(精白小麦粉、白砂糖など)と肥満その他多くの慢性疾患との因果関係は、科学的に証明されている」

「脂肪、特に飽和脂肪が健康に悪く、炭水化物は良いと数十年の間言われてきたが、過去10年を見ればアメリカやオーストラリアでは肥満症例が増加しているのではないか」

最新データでは、豪州の5-17歳の25%、成人の61%が『太り気味』または『肥満』に該当するという。

「乳製品、特に牛乳、チーズなどの全脂肪乳食品を、太るからという理由で食べない例は珍しくない」DAのズーコ栄養士はこう語る。

「しかし、最近の研究では乳食品を控えている人のほうが、多く食べる人より体重が増えやすいことが指摘されている。乳食品等のカルシウムが豊富な食品を食べないと、骨の健康の面でもリスクが高まるおそれがある」

「精製炭水化物を減らし、その代わりに乳食品(牛乳、チーズ、ヨーグルト)を1日3回、毎日食べることが健康上望ましい」(ズーコ栄養士)

## 豪州の生産概況

### 成長基調は持続の見通し

10/11年は南東部の酪農地域での豊富な雨量や乳価上昇(前年比20%強)を背景に、輸出向け主要生産地を中心に好調を持続したまま生産シーズンを終えた。

10/11年の生乳生産量は、前年比1%(8000万 $\mu$ 増)の約91億 $\mu$ (速報値)。一方、新シーズンに向けて乳牛頭数拡大に意欲を示す酪農家が多く、また南部生産地域では飼料コストを上回る利益が期待できることから、現時点の11/12年の生産予測は1-2%増の92.5億 $\mu$ の見込み。

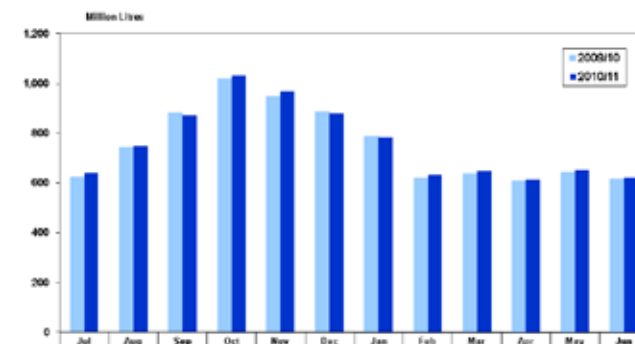
酪農家は財務基盤の立て直しと強化を優先しており、生産増に向けての追加投資に対する慎重な姿勢を崩していない。

11/12年シーズン最初の乳価は、原料乳製品の値動きが世界的に堅調で豪州メーカー間の引き合いが強まっていることを反映し、輸出向け中心の南部生産地域で前年比3-4%上乘せとなった。シーズン終盤の最終価格も前年度(10/11年)並になると見られる。これは酪農乳業の世界的ファンダメンタルズから見て妥当な予測と思われるが、世界経済全般という視点に立った場合、現在の乳製品市況に不安材料が無いとまでは言い切れない状況だ。

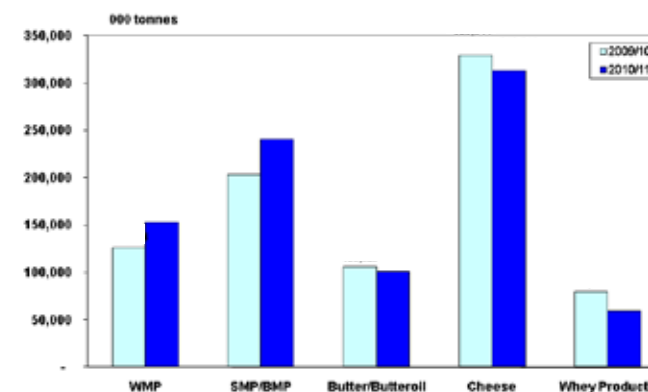
原料乳製品製造量(暫定値):バター/バターオイルは4%減、チーズは5%減。

チェダーは5%減だが、ノンチェダー系では種類により増減にばらつきがある。粉乳は脱脂粉乳18%、全脂粉乳21%と10/11年シーズン全体を通じて大幅増。原料乳製品市況が前年度来の堅調さを保つ中、輸出メーカー各社が利幅の大きい品目に力を入れていることを反映したものと見られる。

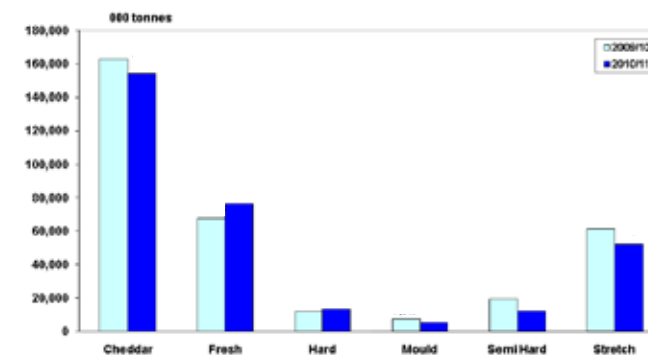
豪州の生乳生産量 10年7月-11年6月



豪州の乳製品製造量 10年7月-11年6月



豪州のチーズ製造量 10年7月-11年6月



## 国際市況レポート

### 供給動向に左右される市況

直近の四半期(11年4 - 6月)に入り北半球の生乳生産がピークに近づく中、バイヤーの関心は世界の生乳供給動向に集まっている。暫定データによれば、米国の生産ペースの遅れは好調なEUがカバーできる見込みという。昨シーズン(10年4月 - 11年3月)を好調のまま終えたEUは、27加盟国全体で2.57%増の136,351トンの生産量となった。今後は年後半の市況を左右する南半球側に市場の注目が集まると見られる。

新たな生産シーズンもEU27カ国は好調を継続している。11年4月生産量は前年同月比2.8%増の12,129トン。27カ国中15カ国で生産量はプラスとなり、EU最大の生産地域(独、仏、伊、英、蘭)では前年比3.0%増。伸び率が最も高いアイルランドでは前年同月比19%の大幅増を記録した。

一方、米国はシーズン当初から生産ペースが上がらず4月は前年同月比1.5%増(73億ポンド)、5月は同1.3%増(76億ポンド)と微増に留まった。月別成長率が2%を下回ったのは10年5月以来のこと。

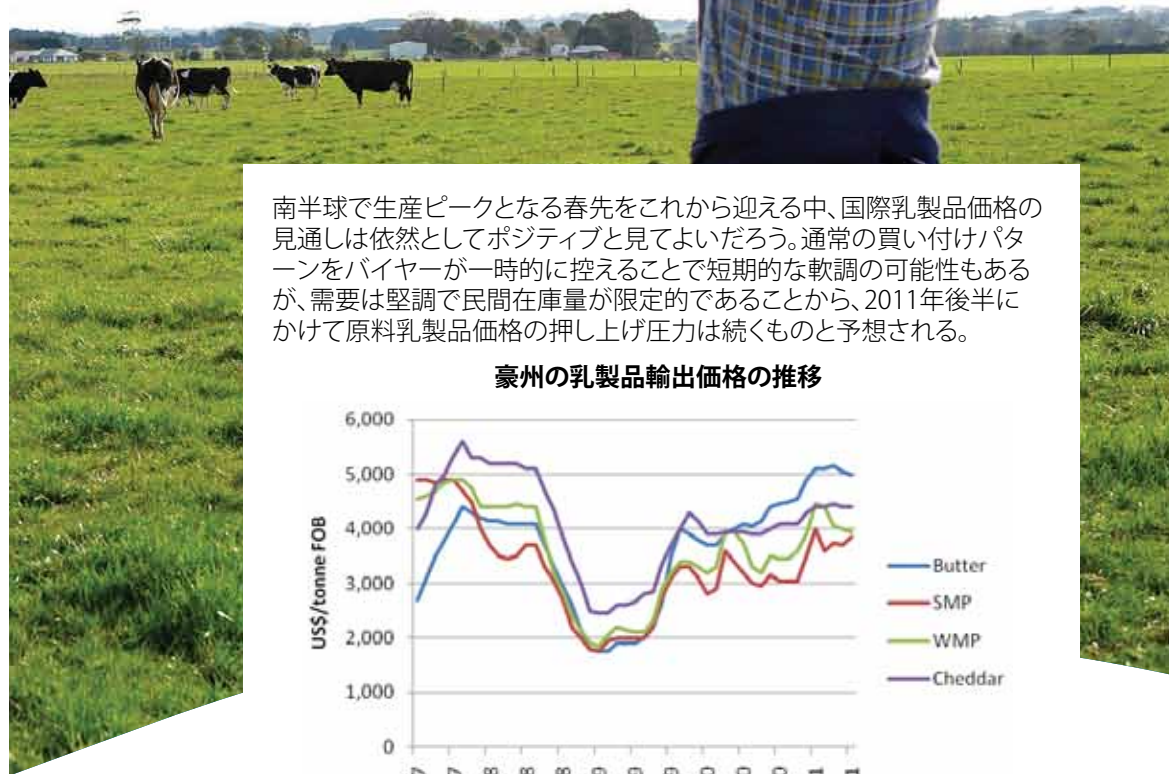
11年1 - 5月の合計では前年同期比1.8%(6700万ポンド)増の360.30億ポンド。成長鈍化の主要因としては飼料コストの上昇があげられてる。

綿・大豆価格の上昇によりトウモロコシとアルファルファの作付面積が減少し収穫量が低下したことが、飼料価格を押し上げている。シーズン初めの飼料価格ははるかに安かったが、最大生産地のカリフォルニア州では資金不足に加え金融機関の融資が抑えられたことから、安い時期に年後半を見越した買い置きができなかった模様。米国の生産ペースが上がらない背景には、こうした飼料コスト増大によるマージンプレッシャーがあると見られる。

NZの昨シーズンの生産は予想をかなり上回り、11/12年シーズンも好調さを継続しそうな気配。豪州は11年6月末で昨シーズンを終え、生産量(速報値)は前年比1%プラスの91億ポンド。南半球の供給動向に影響しそうなのは南米の状況だ。生産量が前年比でプラスとなったアルゼンチンでは、粉乳の製造能力(主に南米他国向け)が限界に近い。余乳の仕向け次第で(おそらくチーズ製造に向けられる見込み)今後の原料乳製品市場価格に影響する可能性がある。

### 見通しはポジティブが続く

生乳供給量全体から豪州国内向けを差し引いた分が輸出に回されるが、輸出向け原料乳製品の製造量の変動は主要4種で様々だ。高止まりが続くバター価格は、北半球からの供給で市場の過熱ぶりが一服したものの、直近の四半期で2%のマイナスに留まった。脱脂粉乳は需要が堅調を保つ一方、インターネット入札globalDairyTradeでの供給量が限定的で引き合いが激しくなったことから7%の上昇となった。チェダーは大きな増減なし。



「ザ・デーリーオーストラリアン」は4ヶ国語（英語、日本語、韓国語、中国語）で発行されています。定期的な閲覧のお申し込み、掲載記事に関するお問い合わせは担当ケイティ・ポーター (Ms Katie Porter) [kporter@dairyaustralia.com.au](mailto:kporter@dairyaustralia.com.au)までお気軽にお寄せください。

発行者: Dairy Australia/デーリーオーストラリア  
「ザ・デーリーオーストラリアン」は読者への情報提供のみを目的としています。掲載情報の正確性については細心の注意を払っていますが、不正確、不完全、時期を逸した情報があった場合、Dairy Australia/デーリーオーストラリアでは理由を問わず一切の責任を負いかねますのでご了承ください。



Dairy Australia Ltd ABN 60 105 227 987  
Level 5, IBM Centre  
60 City Road, Southbank VIC 3006  
T + 61 3 9694 3777 F + 61 3 9694 3888  
[www.dairyaustralia.com.au](http://www.dairyaustralia.com.au)

